

黄体ホルモンを活用した牛受胎率向上技術の開発(H23～25 年度)

実施主体：福井県畜産試験場
 担 当：家畜研究部肉牛バイテク研究G
 連携機関：(独) 農研機構畜産草地研究所
 (社) 家畜改良事業団

1. 研究の目的・必要性

福井県は、夏季において長期間にわたり高温多湿であり、乳牛を飼養するうえでは厳しい環境条件にある。このため、本県の乳牛の1頭当たりの生産乳量や分娩回数等の繁殖成績は全国下位であり、受胎率を向上させる技術開発が必要である。本研究では、黄体ホルモン製剤※を活用し、黄体ホルモン値および血液性状値と受胎率との関係を解明することで、受胎率を向上する技術を確立する。その結果、本県の気候風土に適合し、酪農家の経営安定を図るための乳牛の繁殖技術を開発する。

※発情不明な牛などの排卵を整える薬

2. 研究項目・内容・年度計画等

研 究 項 目	研 究 内 容	実 施 年 度		
		H23	H24	H25
① 受胎率向上に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・受胎牛の分娩後における人工授精後の黄体ホルモン製剤の利用方法（装着時期と受胎の関係） ・不受胎牛における黄体ホルモン製剤の利用効果を解明 			
② 不受胎牛の早期摘発に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・不受胎牛における黄体ホルモン値の推移と受胎との関係を分析 ・黄体ホルモン製剤の効果の有無による不受胎牛の類別開発 			
③ 牛の栄養状況の指標化	<ul style="list-style-type: none"> ・血中アミノ酸の1つである3-メチルヒスチジン(栄養状態)や血液性状値(健康状態)と受胎との関係を分析 			

3. 期待される成果等（成果目標）

- ①受胎率の向上（着床率の向上7%）
 不受胎牛の早期摘発技術の開発（空胎期間の短縮 194 日→173 日 排卵の1周期(21 日)の短縮）
- ②上記の結果、
 - ・研究成果を酪農家、畜産技術者、獣医師等に技術移転を実施（技術指導、講習会の実施）
 - ・空胎期間の短縮による経済損失の低減（40,000 円/頭）
 - ・動物医薬品業界への技術移転

4. 予算額 3, 1 8 2 千円（財源：国庫 10/10 [特別電源所在県科学技術振興事業費補助金]）